

県産米、魅力をPR

米穀肥料協同組合青年部 東京農大で授業



県米穀肥料協同組合青年部は十三日、東京都の東京農大で県産米をテーマにした授業を行った。東京電力福島第一原発事故に伴う風評払拭（ふっしょく）につなげる狙い。首都圏の大学生たちが本県の取り組みを勉強した。

同大國際食料情報学部国際食農科学科の一年生百五人が参加した。授業名はS）による情報発信力総合演習「米概論」。青年部長の猪俣優樹さん（二十九歳）が原発事故後の県産農産物流通の歩みを説明。収

穫された後のコメが消費者の口に入るまでの流れを伝えた。実習も行われた。青年部員が農産物検査の仕方を持つ大学生への授業を通じて県産米の魅力を全国に広げる狙いもある。昨年から実施しており、二回目。

パナソニックの協力。県のふるさと・きずな維持・再生支援事業の一環。

同大の上岡美保教授（四十四歳）は「学生はコメの生産や流通の現状だけでなく、農業の文化、コメのおいしさまで幅広く学ぶことができた」と強調。「福島の長きにわたる努力に感心している。福島の取り組みを学ぶ機会を今後もつくっていきたい」と述べた。

生 農産物検査を体験する大学